神秘の大地　マンギスタウ

トゥズバイル塩湖とウスチュルト台地

2025年9月12日～9月20日　9日間

記録作成　中村えつこ

1日目 9月12日(金)

成田＆関西空港 ✈✈ ソウル ✈✈ アルマトイ

成田空港より７名様と添乗員の中村が、関西空港より３名様がアシアナ航空にてソウル・インチョン空港に向けて出発。ソウルでは関空の皆様が長い時間を過ごされましたが、無事に全員合流しアルマトイ便に搭乗して出発。

アルマトイ空港に着陸し、入国審査は順調に済んだもののスーツケースがなかなか出て来ずにヤキモキしましたが、出口でガイドのアラフィヤさんと合流。大きなバンに乗り込んで、２３時にホテルに到着できました。長い1日、お疲れ様でした。

《 アルマトイ / オトラル泊 》

2日目 9月13日(土)

アルマトイ観光 🚌 アルマトイ ✈✈ アクタウ 晴れ

昨日は夜遅かったので少しゆっくり目にホテルを出発して、午前中はアルマトイの徒歩観光です。アラフィヤさんと一緒にまずは両替。そして街の中心に位置するパンフィロフ公園の中央に立つゼンコフ正教会へ。カザフスタンで最も古くて美しいと称される木造の教会は1904年に建設されて1911年の大地震でも倒れなかったことでも有名です。宗教が制限されたソ連時代には博物館として使われていましたが、ソ連崩壊前の1980年代終わりに正教会として復活しました。そのまま公園を通り抜けて、第2次世界大戦中の対ドイツ戦でモスクワ防衛のためにカザフスタンから出征して戦死したパンフィロフ将軍と28人の兵士たちの記念碑をお参りして民族楽器博物館へ。カザフ族に伝わる弦楽器「ドンブラ」を中心に、カザフスタンの各地方の民族楽器や、その他の地域で使用される民族楽器、世界の国々の楽器を展示していました。日本からは大正琴、陣太鼓、沖縄の三線が展示されていましたね。展示物も充実していましたが、木造の建物も素晴らしく、ゼンコフ正教会と同じ建築家の手によるものでした。最後はカザフスタンの有名なお菓子会社のRAHATのお店でお土産のお菓子の下見をし、ホテルに戻る途中でキャンプ用のビールをゲットしました。

ホテルでビュッフェの昼食をとってからアルマティ空港に向かい、チェックインの後はアラフィヤさんと暫くお別れです。ありがとうございました。ラフマット！

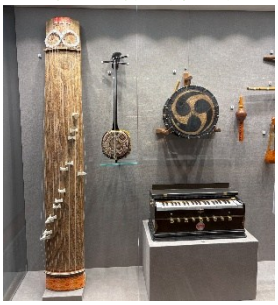
ゼンコフ正教会とその煌びやかな内部

28人のパンフィロフ兵士の像と慰霊の炎

民族楽器博物館とその展示物

様々な形のドンブラ

お琴　三線　陣太鼓



　カザフスタンの南東の端からカスピ海に面した南西の端のマンギスタウ州の州都アクタウまでは直線距離にして約2100㎞、３時間少々の飛行。機内で少し寝て寝不足を少し取り返しました。
　アクタウ空港では荷物があっさり出て来てくれて、到着ロビーでは明日から本格的にお世話になるアンドレイさん、アルビナさん、チョーマさんのお出迎えを受けて小型バスでホテルへ。到着はすっかり遅くなった21時前だったので急いでチェックインし、前菜のサラダ、メインのチキンライス、デザートのアイスクリームまで並べられた食卓で夕食を召し上がっていただき、明日からのキャンプの準備に勤しみました。今日も長い一日でした。お疲れ様でした。

《 アクタウ / ゼルイック泊 》

3日目
9月14日（日）

アクタウ 🚙 シャクパックアタ 🚙 ショモナイ　　晴れとくもり

　本日から4台の四輪駆動車とキッチンカーと共に絶景尽くしのキャンプツアーに出発です。現地のスタッフを紹介していきますと…
1号車　ドライバー兼地質学の学者アンドレイさん（父）と通訳のアルビナさん（娘）
2号車　ドライバー　アルチョーもしくはチョーマさん（息子）
3号車　セルゲイさん　このツアーではほぼ必ず運転してくれます
4号車　ユーラさん　　同じく、このツアーでは必ず登場します
5号車　イジケさん　レトロなソ連製と思しきワンボックスカーを運転　同じく毎回登場

　ボスであるアンドレイさんの判断によると、先日より雨が少し降っていて、また風が強くなりそうなので、日程とは逆回りの時計回りで進める事になりました。旅行の後半で判るのですが、これが大正解！でしたね。まずはカスピ海を眺めにいきました。

　カスピ海は『ユーラシア大陸の中央アジアと東ヨーロッパの境界にある塩湖で、面積は日本の国土よりもわずかに狭い37万4000 km^2。水量は世界の全ての湖水の40%から44%を占め、湖全体の平均塩分濃度は1.2%と海水のほぼ1/3である』とウィキペディアでは書かれていますが、近年その面積は縮小しているので、実際はもっと小さいと思われます。カスピ海には5カ国、反時計回りにカザフスタン、ロシア、アゼルバイジャン、イラン、トルクメニスタンが面していますが、それぞれの国の大人の事情で昔からの考え方の「湖」なのか「海」なのかが論議されてきました。2018年に決着し、「海」になりました。インターネットで「カスピ海　海か湖」などのワードで検索すると色々出て来て読んでいて面白いので試してみて下さい。
　さて、私たちはカスピ海の畔の展望エリアで少し写真ストップと、元気な方は湖畔まで下りてみて、カスピ海に触り、舐めてみました。うーん、塩味かなぁ？という薄々味だったようです。

カスピ海を後にし、オフロードに入っていくと徐々に景色が変わり、通称シャクパックアタ渓谷と呼ばれるポイントで写真ストップし、その谷に下りてシャクパックアタ岩窟モスクを訪ねました。モスクはチョーク（白亜　石灰岩）の岩山に彫られており、諸説ありますが、10世紀から13世紀の間に遡るそうです。ネット情報を抜粋＆加筆しますと以下の通りです。

モスクの名前「シャクパク・アタ（火打石の父）」には2つの由来があり、1つは近くにある火打石（フリント　flint）の鉱床にちなんだもの。もう1つは、戦闘で武器が輝いたとされるスーフィー（イスラム神秘主義者）のシャクパク・アタがこの地に住んでいたこと。伝説でシャクパク・アタは指先から炎を放つ力を持つ強力な人物として描かれ、晩年は隠遁生活を送ったと言われています。彼は癒しや人々の助けを行うことで知られ、死後もそのご利益を求め多くの巡礼者が訪れてきます。モスクについては、14～16世紀の間に建てられた、あるいは10～13世紀のものとされています。
石灰岩は小さな穴がたくさん開いていましたが、この地質学的形状は、何百万年も前にマンギスタウが古代テチス海に沈んでいた時に形成されました。入り口は標準的な長方形のデザインで、隣接する墓があります。モスクの内部はキリスト教の十字の形をしており、天井には光の明り取りの丸い空間があります。四つの異なる柱は、水、風、火、土を象徴し、ゾロアスター教の影響を示唆しています。壁にはロウソク用の凹み、絵、碑文、さらにはスーフィーの詩があり、馬の図とイスラム教の「ファティマの手」が目立ちます。階段を上がると、周囲の峡谷、ネクロポリス（墓地）、巡礼者の避難所（ゲストハウス）が一望できました。

高台から眺めたシャクパックアタ渓谷　初めての絶景に大興奮！

中央アジアではフタコブとヒトコブ
ヒトコブラクダが混在します

シャクパックアタ岩窟モスクの入り口

祈りの方角を示すミフラブと天窓

壁の装飾が美しい

岩窟モスクを出て少し走ったところでピクニックランチ。用意ができるまでその辺りを散策。「太古の滝のあと」という新説を唱える「地質師匠」が誕生した瞬間。この後、様々な師匠が生まれて来たのでした。さて「ゴハンガデキタヨ～」の声で戻ると、食卓はテーブルと椅子が並べられた立派なものでした。メニューはアンドレイさんの奥様お手製のライスサラダ、スモークサーモン、チーズケーキと野菜。とっても美味しかったですよね！　食後は私たちがいたカパムサイ渓谷を上から眺めるポイントへ。物凄い絶景で、こんな所でランチをとっていたのか、とびっくりしました。

食後はタオキクという街のスーパーに寄ってキャンプの食材や追加のビール、おつまみのピスタチオを買ってラウンドロックへ。ドッタンバッタンと左右に大揺れするオフロードを進みました。着いてみると本当に丸っこい岩や大岩が密集していて不思議な光景でした。なぜこんな岩が形成されるかというと、元々はアンモナイトなどの化石だったものにマグネシウムやカルシウムなどのミネラルが付着し、長い年月をかけて大きく育ち、それが大地の圧力で圧縮されて岩になり、地殻変動で地表近くまで押し上げられ、長年の風食＆浸食で地上に出て来たのだそうです。今も地面の下にはまだたくさんの丸岩が埋もれているのです。ぱっかりと２つに割れた大岩では「パッカーン、桃太郎誕生ごっこ」の撮影大会。待ちくたびれたアルビナさんが「もう十分でしょ…」と案内してくれたのは親子カメ岩、クマさん岩でした。クマさんの目つきが悪いのでもう少し可愛い目に置き換えてあげました。

丸い大岩の地層がここに露出した

桃太郎岩

もうちょっと可愛くなろうね

色々と遊んで今日はこれくらいに。キャンプ地となるショモナイ山エリアへ直行。白とピンクと茶色の層を成す岩山が連なる所に到着。テントの立て方やキャンプのルールを把握してキャンプ生活開始。皆様手際よく立てられていました。テント設営が終わり夕食ができるまではフリータイム。大自然の風景を楽しみながら周辺を散策されていました。

夕食は炭火で焼いたチキン、ナス、巨大なキノコのBBQとサラダ。コニャックの差し入れもありました。キャンプ初夜とこれから楽しい日々になる事を願ってカンパ～イ！🍻

《 ショモナイ 泊 》

4日目
9月15日(月)

ショモナイ 🚙 シェールカラ山 🚙 トゥズバイル塩湖　　晴れ

夜は風が吹き、夜半には雨も降りましたが、起きる頃には止んでいてよかったです。テント泊初めての朝なのでテントの撤収方法を実演しました。解体して丸めるのは難しくはないのですが、小さな袋に詰めるのに苦労します。朝食は毎朝8時からですが、7時45分前後にはいつも準備できていました。メニューはほぼ毎日一緒ですが、イクラがとても好評でした。

9時丁度にキャンプ地を出発し、午前中は写真ストップを繰り返しました。ショモナイ山を別角度から眺めてからシェールカラ山のエリアへ移動。シェールはトラを、カラはお城の意味があるそうですが、どう見てもトラには見えず、一同う～む。最初に少しその山に上ってみて、トラが伏せているように見えるらしいポイントとユルトの形に見えるポイントでストップ。

ショモナイ山の反対側の岩山

ショモナイ山

シェールカラ山の裏側かな？

この絶壁を背に写真を撮りました

伏せたトラ…ですかねぇ…

角度を変えるとユルトの形

シェドベという町にスーパーがあり、キャンプ2日目の朝にして早くも最後の買い出し。若師匠の助言で美味しいブドウと、リクエストがあったハチミツを買ってもらいました。かなり早めですが、町のドライブインで昼食。油たっぷりのプロフ（ピラフ＝チャーハン）とマントゥ（肉まん）を注文してくれました。そしてお楽しみのトゥズバイル塩湖へ。

トゥズバイル塩湖とは、トゥズ＝塩　バイル＝湖なので「塩湖」そのままの意味です。ここはテチス海の名残であり、テチス海が縮小し干上がっていく過程で塩分が地中に残り、雨が降って水が溜まると塩分が地表に溶け出して塩湖となるのです。それがまた干上がり、溶け出し、干上がり、と繰り返すと地表に塩分が蓄積して白っぽい大地になっていきます。トゥズバイル塩湖の周囲は高さ100m程の白亜(チョーク＝未固結の石灰岩）の断崖が10km以上続きます。まずはその断崖の上から白く広がる塩湖を眺めて見ましたが、水はかなり遠くにしか見えませんでした。次にいよいよ塩湖に入っていくのですが、断崖が続くためかなり大回りをして、一部アスファルト道路を走行し、2時間近くかかりました。水がある所も見えず、時間的に遅くなってしまったのでキャンプ地を決める事にしました。恐らく予定していた辺りには既に先客がテントを張っていたので奥へ奥へと進み、時にはタイヤにへばり付いて巻き上げられた泥が車体ボン、ボン、ボンっと当たったり、スタックしそうになりながら17時半頃ようやくキャンプ地が決定。手際よくテントを立て、お城づくりが一段落した後は夕食の時間まで塩湖の方にお散歩。トリック写真ではないですが、「人類の進化」「千手観音」風の写真を撮って楽しかったですね。

上から眺めたトゥズバイル塩湖　　写真3枚をツギハギしてパノラマ写真風に

左手奥に水があるように見えます

下に降りるために大回り中

下に降りて、塩の地面撮影中

白亜の断崖の下でテント設営中

夕食準備中

夕食前に散歩中

人類の進化中

千手観音出現中？

果たして千手観音か?

トカゲ!!!

人物像が並んでいるように見える

見た目は今一つ、味は★3つ！

夜空

今日の夕食はサラダとパスタとおススメのブドウ。見た目以上にうんと美味しいパスタとブドウに今夜もカンパーイ！天の川と満天の星空もステキでした。

《 トゥズバイル塩湖 》

5日目
9月16日（火）

トゥズバイル塩湖 🚙 ボクティ山付近　　晴れ

ゆっくりと朝の支度ができるよう毎日起床は6時半に設定する事にしました。外はまだ暗いです。車の支度ができるまで近くの化石が見られる所までお散歩しました。

白亜の谷間に入っていくと、アンモナイトとウニ、貝の化石がたくさん　　ベレムナイトの化石

ウィキペディアには『ベレムナイトは白亜紀末に絶滅した軟体動物門・頭足綱の一分類群で、形態的には現生のイカに類似している。ベレムナイトは体の背部から先端にかけて矢じり型の殻を持っていた』と書かれていて、その矢じり部分の化石が右端の写真のようです。アルビナさんが「イカ」と言ったのは説明が長くなるからと思われます。イカの祖先かどうかは解明されていません。

キャンプ地に戻って、いよいよトゥズバイル塩湖周辺の観光開始。車は直ぐに停まり、ご自由にどうぞ、と言わんばかりに放りだされました。確かに車だと重さでぬかるみそう。奥の方に水らしき映り込みが見えるのでずーーっと歩いて行きましたが、どうやら蜃気楼のよう。水は諦めて、今度はジャンプ写真、メリーポピンズ写真などに興じました。ジャンプ写真はタイミングが難しく、飛ぶ方も撮る方も結構息切れします。

その後は白亜の岩山にぽっかりと穴が開いた場所と白亜の柱が並んだような場所で写真を撮り、そのままピクニックランチです。わかめご飯＋イワシの酢漬け＋差し入れの味付け海苔がお寿司のような味を醸し出し、大好評でした。そういえば穴あきポイントへのルートは足場悪くて大変でしたね。

トゥズバイル塩湖を離れ、今度はボスジラ台地に移動です。その途中でお手洗い休憩をしましたが、目的はどうやらお手洗いよりも、スマホの電波が届くので今後の天候チェック、ドライバーさん達の個人的なメッセージチェック、家族との電話のようでした。見えてきた山はボクティ山。高さは約160mで、1000テンゲ札に描かれているくらい有名な山のようでした。ボクティ山の展望所でもう一度トイレストップ（スマホチェック)をしてから角度を変えて更に２回写真ストップ。そしてキャンプ地へ。今日も予定地には先客がテントを張っていたので別の場所を探すのに時間がかってしまいました。到着は18時半。お疲れ様でした。

今夜のごはんはキャベツサラダとピラフ。ラッキョウも登場して満腹になりました。

ボクティ山は台形だったり、とんがりがあったり見る方角によって形が変わる

1000テンゲ札

イジケさん抜きで集合写真を撮りました

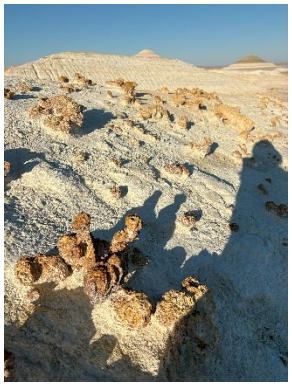
到着遅く、調理も暗闇の中

今夜のキャンプ地

《 ボクティ山泊 》

6日目
9月17日(水)

ボクティ山 🚙 ボスジラ台地　　晴れ



キャンプ４日目の朝、支度も手慣れて早々と終了したので、朝食までの間、キャンプ地横の小山に上って日の出を楽しまれていたようです。小山に上ると丸い、動物のフンのような物体が一面に落ちていました。恐る恐る顔を近づけてみてみるとフンではなく、何かの鉱物らしき物。地質学者であるアンドレイさんに訊いてみると、詳しくは仰りませんでしたが、確かに金属製のミネラルが固まっているとの事でした。

さて、本日はマンギスタウツアーの目玉となるボスジラ台地へ向かい、と言ってもボクティ山から近いのですが、明日のお昼までその絶景を堪能します。

キャンプ地を出て七変化するボクティ山の3つ目の姿・ユルトの形に見えるポイントと、遠ざかる姿を見納めるといよいよボスジラ台地に入っていきました。写真ストップを何度も繰り返し、それでも見飽きない雄大な風景でしたね。

ナイフの先のような岩山

ちょっと位置を変えると2本に

今日のランチはここ

岩山は貝塚と化石の宝庫でした

化石と貝　持ち出し禁止でリリース

日陰を作ってくれました

特徴的な岩山に上って、振り返ると、あらやだ、こっちの岩山もステキやないですか

台地の上からのツギハギパノラマ写真　よーく見ると中央辺りに先ほどの岩山２つ　その拡大写真

台地の上から一望した後は次の写真ポイントへ。帽子のような形の岩山が見えました。そこから少しだけ進むと車を下りて、ハイキングを始めるとの事。所要1時間半くらい。どんな所だろうと歩き始めると、同行してくれたセルゲイさんが可愛い子ガメを発見！しっかり生きてね！

一部かなり足場が悪い所を上がって行くと、出るわ出るわ、次々と絶景が展開しました。凄いなぁ!!!と感嘆しているともう少し先のビューポイントにいざなわれ、進むとそこにも絶景が、次のビューポイントにも絶景が、の連続でしたね。もう大興奮でした～～。

帽子山

絶景かな、絶景かな

岩山の上に皆様

拡大写真　バンザーイ

絶景ハイキングはまだ続く

岩山の先端からの眺め　左に先ほどの絶景ポイント

こんなに絶景が楽しめるハイキングとは露知らず、思わぬ嬉しいサプライズとなりましたね。時間をすっかり忘れて過ごしてしまったので最後のキャンプ地到着は昨日よりも遅い18時40分。ユルト山のすぐ前のベストポイントでしたが、女性トイレに決めたエリアが四輪駆動車から丸見えで困りました。

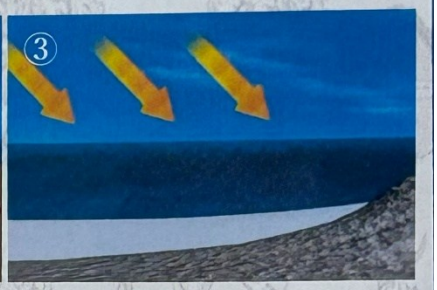
最後のキャンプタ食は野菜とポテトの煮込みとチキンハム。見た目は大した事はないのですが、やはり美味しい。おかわりを希望しましたが、残念、もう売り切れでした。満天の星空を見られるのも今夜で最後。堪能できたでしょうか。

《　ボスジラ台地泊 》

西遊旅行の資料にこのようなものがありましたので転記します。マンギスタウの大地がどのようにして形成されたかが分かりやすく説明されています。

白亜の大地マンギスタウ ～太古の海 テチス海の記憶～

カザフスタン南西部とトルクメニスタン北西部に広がるウスチュルト台地。白亜と呼ばれる白い岩の層が広がる奇観を呈している場所です。この白い層は地球の大陸がローラシア大陸とゴンドワナ大陸に分かれていた時にその間に存在していた海、古代テチス海の跡を伝えるものです。ローラシア大陸の活発な地殻変動の結果、テチス海は内陸に取り残され現在のカスピ海を作りました。その後も気候変動などによりカスピ海の大きさは変化し海進海退を繰り返します。



①6500万年前の世界地図と推定されるもの。活発なプレート活動によりテチス海は内陸に追い込まれつつあるのことがわかります。この後、約4000万年前にインド大陸が現在のユーラシア大陸に激突し 8000m級の山々が連なるヒマラヤ山脈が形成されることとなります。さらに2000万年前になるとアフリカ大陸とユーラシア大陸が地続きとなりました。

②6500万年前頃のテチス海は遠浅の海で、太陽光を浴びて円石藻(エンセキソウ)と呼ばれる植物プランクトンが大量に発生し、長い年月をかけて海底にその死骸が堆積しました。

③白い層は円石藻が堆積した層。これが後に白亜の大地の元となりました。白亜の地層は円石藻の化石(炭酸カルシウムのココリス)から成っています。英語ではチョークと呼ばれ、日本では地層が堆積した年代から、白亜紀の語源となったほか、黒板に用いるチョークの語源にもなっています。
※白亜の地層も後述の石灰岩も炭酸カルシウムからできている点は同じですが、堆積した時代や有機物の種類、純度などが異なるようです。

④堆積した白亜の地層が約5000万年前に隆起し、その後のカスピ海の海進海退や風化・侵食の影響を受け現在の光景を作り出したと言われています。また、この白亜の地層の上に貝殻(炭酸カルシウム)が フタの様に堆積し、ギャップロックと呼ばれる石灰層を形成しました。ボクティ山の石灰岩層は緑がかった土色でしたが、これは炭酸カルシウムに不純物が多く混じった結果 この様な色になるとのことです。石灰岩は英語ではライムストーンと呼ばれています。このギャップロックがなければ、白亜の層の大部分が風化・侵食で削られ今の様な景観にはなっていなかったかもしれません。

⑤活発な地殻変動によりテチス海が徐々に内陸に取り残されて行きます。

⑥約550万年前、テチス海は完全に内陸に取り残されました。テチス海は元々は現在の地中海、黒海、 カスピ海を繋げたような広大な海でした。 地殻変動の後、海進海退と呼ばれる海の増水・減水を繰り返し徐々に干上がっていったテチス海の名残が現在のウスチュルト台地なのです。

7日目
9月18日(木)

ボスジラ台地 🚙 アクタウ　　晴れ

満天の星空に満ち引かれてキャンプ生活最後の朝が穏やかに明けました。

載せきれなかった最後の夕食

最後のごはんですよ～

毎朝のごはん　イクラが大好評

日々絶景を目の当たりにしてきましたが、今回の逆回りコースでは絶景度合いが徐々に増していき、驚愕の連続でした。本日はその総仕上げです。午前中はボスジラ台地で写真ストップを繰り返しながら移動しました。

昨日から眺めてきた奇跡の大地を一望　右にユルト山、中央に昨日のハイキング地、帽子山、その左後方に昨日の昼食後に訪ね、この後最後を締めくくる岩山が見える

4回目で最後の写真ストップ地はこのツアーのメイン写真の場所でした。そして、この時まで気づかなかったのですが、昨日の昼食後にちょっと上ってみた山だったのです。位置関係がよく理解できていませんでした。おまけに振り返って見えた左の写真の岩が手前の岩山に重なって見えないので似ているとは思いましたが、まさか同一の山とは思いもせずびっくりです。

キッチンカーのイジケさんは昼食後にお別れとなってしまうので、ここでスタッフ一同と共に最初で最後の集合写真を撮りました。この後、ドライバーさん達は昼食の準備のために戻っていき、私たちは少し下りた岩の先端まで恐る恐る歩きつつ、先っぽ写真大会に興じました。
ツアーがここまでトラブルもなく無事に過ごせたお祝いに、昼食はめでたいちらし寿司。

昼食後はアクタウに帰るのみ。とても名残惜しいです。30分少々でアスファルト道に戻れたので、その後はスムーズに快走。途中、ミニマート、給油、お手洗いストップをする以外はひたすら走るのみ。17時半過ぎに無事ホテルに到着し、夕食までには5日ぶりのシャワーを浴びてサッパリとしました。明日は未明に出発するので急いではいましたが、またもやサラダからデザートのアイスクリームが一気に食卓に並べられていて、そこまで急いではいない、と皆様も内心ツッコミをされていた事でしょう。

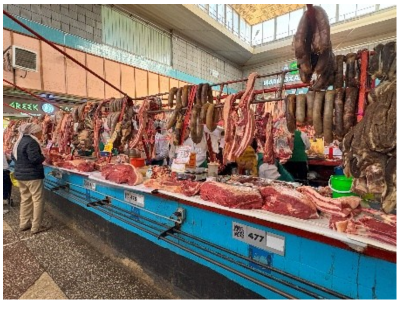
《 アクタウ / ゼルイック泊 》

8日目
9月19日(金)

アクタウ ✈ アルマトイ（休憩とお買い物） ✈ 晴れ

眠れたのか眠れてないのか分からないくらいの午前2時45分に起床し、アルビナさんとチョーマさんと共に空港へ。ハグでお別れして機内では爆睡、目が覚めたらアルマトイに着いていました。
懐かしいアルフィヤさんと再会してオトラルホテルでチェックインだけ済ませて、歩いてグリーンバザールと最後のお買い物をしました。グリーンバザールではドライフルーツ、ナッツ類、ハチミツ、カザフ民芸品などを購入。次のスーパーではキャンプ中に毎朝出され好評を博したイクラペーストをたくさん買うことができました。ここで昼食の予約時間となったのでお買い物は一旦中断。蘭州ラーメンと様々な種類のケーキを美味しくいただいた後、引き続き RAHAT で職場へのお土産としてチョコレートを大人買いしました。これでようやく用事はすべて済み、夕食までの数時間は休息。ホテルレストランで早めの夕食をとって空港へ。

馬肉のエリア



丸いのは干したチーズ

あっさりと美味しい蘭州ラーメン

チェックイン時には問題なかったのですが、待合室でアシアナ航空便の出発時間がどんどん遅れてしまい、結局1時間遅れで出発。ソウルでは成田便にはまず乗り継げないと覚悟しました。

《機中泊 》

9日目
9月20日(土)

✈ ソウル ✈ 成田・関西空港

ソウルに着いてみると、何と成田便が30分も遅れてくれていて、慌てることなく無事に乗り継ぐことができました。関空便は4時間後に出発。昼から夕方にかけて全員の方が日本に無事帰国しました。大変お疲れ様でした。

この度はマンギスタウの旅にご参加いただきましてありがとうございました。
4泊5日にもわたるキャンプを含む行程が無事に滞りなく終了できましたのは、
皆様の様々な場面でのご協力、ご理解の賜物と思っています。
本当に感謝しています。
私にとっても、ずっと笑い声が絶えない楽しい旅行でした。
また、マンギスタウの大自然の美しさにハートを射抜かれてしまいました。
皆様にとってもそうであったことを願います。
この旅の記録が旅行の思い出に、お写真の整理に少しでもお役に立てれば幸いです。

「暑さ、寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、
朝夕、半袖では肌寒く感じるようになりましたね。
季節の変わり目、体調を崩されませんよう、どうかご自愛ください。

中村えつこ

マンギスタウのステキなスタッフ達
左より、1号車アンドレイさん　キッチンカー　イジケさん　通訳のアルビナさん　中村
2号車　チョーマさん　3号車　セルゲイさん　4号車　ユーラさん